

## 本校複式教育の特徴

○本校では、「わたり型」を充実・発展させた「見守り型」の授業スタイルを提案しています。(下記資料参照)

・両学年を一定の時間でわたり、指導していく授業スタイルの有用性もありますが、本校では両学年の児童が自分たちの手で学習の進行を行うことを核に、両学年同時展開で授業実践を行うことの有効性を研究し、検証しています。

この授業スタイルを通して児童は、同時に、豊かな表現力や他者とかかわる力など、多くの力を身に付けていきます。

○このような複式学級の指導法は、通常学級の授業展開に応用することを通して、すべての児童の学力の向上に資することができます。

・「主体的に学習に取り組む態度」は、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力とならんで、学力の重要な要素です。言語活動や主体的学習を通してこれら3つの学力を同時に身に付けさせていくベースとモデルが複式教育にはあります。

→本校では複式学級、特別支援学級、通常学級の指導法のよさを交流し合い、それぞれの授業の改善・向上を図っています。

○複式教育の実践や複式教育の活用を通して、教師自身の授業力の向上が図られます。

・複式教育では、両学年の教育課程から授業内容を再構築し、それに伴う指導法の開発を行うことを通して、教師の授業力の向上が日々図られていきます。したがって本校では、すべての教員が複式教育の指導案を作成したり、他の学級とのコラボレーション授業を試行したりと、研修をより深めています。

○海外でも、児童数や地域の状況に応じて、複式教育は行われています。

・ある海外の学校で児童数の減少により複式教育に移行した学校で、複式教育に対する理解と人気が高まり、児童数が増加したという報告があります。また、児童数が増加しても単式学級とともに複式学級を複数継続的に設置している事例もあります。

それは、海外でも児童の主体性や教員の資質能力の向上などが、評価されているからです。